

天満宮(天神社)



江戸時代の城山周辺の様子

天神社の創建は不詳ですが、伝承によれば、戦国時代に後北条氏の家臣で福岡村を領地とした富永善左衛門が館の鬼門の方角を守護するために勧請したと言われています。神社の場所については、元は現在よりも二百メートル程北東にあり、背後に雑木林をひかえ、神楽殿や境内社のなどの建物を備えるなど大規模なものだったことが伝わっています。

明治四十二年(1909)の神社整理により長宮氷川神社に合祀(合併)され、その後、下福岡の住民により旧地に近い場所に再び社殿が造られたようです。その際、「天満宮」の名称が付けられたものと思われます。なお、一説では長宮氷川神社の神楽殿は天満宮からの移築と言われています。現在、天満宮には社殿と鳥居、社務所があり、社には天神様と天王様が祀られています。神事祭礼は、元旦祭、春祈禱三月二十五日、天王様のまつり七月十四日(それに近い日曜日)があります。



長宮氷川神社神楽殿